

境港市社会教育委員会議 会議録

平成 26 年 11 月 11 日

境港市社会教育委員会議（平成26年11月11日委員会議 会議録）

召集年月日 平成26年11月11日 15時00分
召集場所 市役所第一会議室
開 会 15時00分
出席委員 松本 敏浩 田中 茂人 廣江 仁 梶川恵美子
門脇規矩子 門脇 哲也 遠藤 恵子 岩本 裕美
足立 利昭 岩間 悦子 渡部万里子 酒井伊津子
土田 良和

説明のために出席した者

教育長 佐々木邦広
教育委員会局長 門脇 俊史
生涯学習課長 沼倉加奈子
生涯学習係長 濱田 潤
文化体育係長 竹内 勝

説明以外の出席者

境港市教育委員会教育委員長 足立ひとみ

傍 聴 者 なし

会 議 書 記 濱田 潤

報 告 事 項 (1) 平成26年度社会教育事業概要について
(2) 平成25年度社会教育委員会議について
～会議での意見及び課題に対するの取り組み状況～
(3) 境港市民会館での現況、方向性について
(4) その他

協 議 事 項 教育委員会の点検評価について
(社会教育事業)

閉 会 17時00分

(15:00 開会)

- 生涯学習課長 開会
教育長 挨拶
足立教育委員長 挨拶
生涯学習課長 報告 (平成26年度社会教育関係事業概要について)
(平成25年度社会教育委員会議について)
(境港市民会館の現況、方向性について)
- 委員 社会教育委員会が本当に必要でしょうか。今頃開催して事業説明をされましたが、例えば市民会館の会議に社会教育委員として参加しているのでしょうか。市民会館が本当に必要か社会教育委員で協議して、教育長・教育委員長に必要なか否か等勉強して調査して、答申するくらいの社会教育委員でないと必要がないと思います。社会教育は、大切。しかし、教育委員と社会教育について、子育てについて話し合ったことはありません。
- 鳥取県図書館協会会長 山田晋さんが、新聞に「オイ！社会教育、目を覚ませ！」と書いておられます。社会教育は大切。学校教育は9年です。人生90年の中で80年は社会教育です。もっと早い時期に社会教育委員会を開催するよう働きかけるべきです。
- 生涯学習課長 もっと早く、情報交換を兼ねて会議を開催すべきでありました。
委員 報告はいりません。提言を求める会にすべきです。
- 生涯学習課長 来年度に向けて、将来に向けて事業に関する意見をいただければ幸いです。それぞれのご専門の立場からご提言・ご意見ありましたらお願いします。
- 委員 女性団体連絡協議会の代表として参加しておりますが、色々と関わっていますので、個人的な意見として言わせていただきます。
- 事業を実施した以上、報告・評価があり、どうしていかにつながると思いますので、2つの事業について、意見・要望を言わせていただきます。教育費の中で、市民総合スポーツ推進事業の中に市民体力テストがあります。このテストの結果が出ているのでしょうか、出ているならば体力テストを行い、勝っている劣っている部分等、今後につながります。出ているなら教えてほしいです。もう一つ高校駅伝について、市民の皆様から、「何の駅伝をしているのか」とよく聞かれます。車で広報をするなど、もう少し宣伝が必要だと思います。
- 委員 この頃は、終わった後の報告となっています。元々これから行う事業について報告する会でした。7月にどういう年間行事があるか報告する社会教育委員会でありました。その時にこれからの事業に対する説明があり、

検討をしていました。年2回会議があり、後に報告がありました。こういう事業を計画していると社会教育委員には報告すべきだと思います。

委員 それぞれの課からも行事の連絡は来ますが、最初と最後の会は必要です。境港市ばかりのことではないが、頑張りましょう。

委員 インターネットの弊害について講演会がありました。インターネットの弊害もですが、何か問題があると学校の責任、先生の責任、教育委員会の責任と言われますがそうではないと思います。1日の大半は家庭にいます。教育基本法にも書いてありますが、父母その他の保護者が一義的には子どもの教育に責任があると書いてあります。子どもに対する教育、地域に対してもそうですが、父母に対する教育があまりありません。何かあるとすぐに学校の責任にする保護者が増えていると感じています。同じように保護者に対して講演などの機会を捉えて、教育が必要だと思います。

委員 健康ウォークについてです。実行委員会がありますが、他の事業等についても実行委員会等がありますか。

生涯学習課 境港市と民間団体、あるいは市民の方々と共催で行っているイベントについては、実行委員会等で協議をして行っています。

生涯学習課長 市職員だけですべてを決めるのではなく、企画の段階から皆様に関わっていただくのが社会教育の本筋です。ほとんどの事業で実行委員会を組織しています。そこに補助金等を出し、実施しています。

委員 学校支援ボランティアについて、渡の代表として言わせてもらいます。読み聞かせを渡はしていないような記述がありますが、渡は学校支援ボランティアを通さず学校が直接公民館等に依頼して行っています。読み聞かせ等は何年も前から行っています。

生涯学習課長 説明 (教育委員会の点検評価について)

委員 精神保健福祉士という国家資格を持っています。メンタルヘルスが専門職ということになります。境港市の自死のことですが、非常に高い自死率となっています。健康推進課・子育て支援課などで調査していると思います。私も一緒に関わっていますが、子ども達が心の揺れがあっても大丈夫なように教育をしていく必要があるのではないかと思います。「命と心を育むプロジェクト」を市の方でやっていただいています。6年生向けにアンケートを3年間継続してやられていて、境港の子ども達は、自己肯定感が高いというデータが出ています。東京の子ども達に比べて「自分はこれでいいんだな」と思っているのが高いという数字が出ています。子ども達が大人になってもこういう肯定感を持ち続けていけるように継続して大人にも命の大切さを理解したり、うつに対する周囲

の理解が浸透していくような取り組みをしていただければと思います。

自死対策の予算が国で終わってしまい、市独自の予算となっていくということで、削られていくのではと危惧しています。社会教育という観点で自死率を低下させていって、できればゼロにしていきたいということを市として打ち出して取り組んでいただきたい。社会教育として講座を開催するとか、出来れば継続して何か取り組みを出来たらいいなと考えております。先ほどのアンケートにつきましては、様々なところで内容を報告できるように、パワーポイントに落としていく事業に取り組んでいます。それを公民館などで市民の皆様に聞いていただくことが出来ます。命の大切さとか、大人もそうですが、うつの人が多いので、うつへの理解とか、自死をしないで済むような周りの理解や声掛けなど市民全体で醸成していける取り組みが出来たらと考えておりますので、よろしく願いいたします。

委員 1つの課ではできません。課ごとの連携で、それぞれの役割で協力すれば良いのではと思います。

委員 1つの課だけではなくて生涯に渡って取り組む課題です。市全体で取り組めたらいいなと思います。

委員 健康推進課で精神障害等の研修会を開催すると、民生委員や幼稚園・学校関係者だけしか参加していないように思えます。本当は、様々な方が研修会に参加し精神障害の理解を深めていかないと難しい。健康推進課のみで開催するのではなく、社会教育が関わって幅広く宣伝することが必要だと思います。

委員 学校教育で保護者とかかわって感じますのは、子育て環境に対する制度は進んでいると感じます。しかし、子育てする力をつける教育は、県にしても地域にしても残されている感じを受けます。環境だけでなく力をつける市民レベルの取り組みが必要になってくると思います。

委員 境港市は、県下でも子育てしやすい町です。次は、心の教育が必要です。親に向かって、学校でもここまでするので、家庭での時間も同じようにきちんと育ててもらうように親教育が必要だと思います。ここに、社会教育委員が関わらないといけないと思います。

委員 親と子どもの劇場は、まさに親を育てる組織です。私もその中で育ててもらいました。会員制の会です、入会する時はわが子が大事です。しかし、暫らくすると、みんなの子っていう意識が会員の中に生まれてきます。我が子だけを良くしようと思いません。みんなと一緒に我が子も良くなってほしいし、いろんな体験をしてほしい。それが続き、運営委員長等になると地域の子という意識で見れるようになります。そういつ

た意味では、独立した自主的なグループですが、境港市にこの会があって、子ども達や迷っている親子さん達の助けになったり、文化的な活動にいざなうきっかけを作っている最後の砦になっていると思っています。そういう組織を町の皆様にも是非応援してほしいと思います。個人的な意識で続けているわけではなく、代々人が変わりながら今まで20年続いている会です。

今は読み聞かせのお手伝いも「ひまわり」で毎週させていただいています。そういう意味でこういうグループが育ってきたということも大きな財産だと思います。お母さん達が頑張れる町。その人達が活動が出来る町。最初は、公民館が支えてくださって、お手伝いをさせていただいていました。その後、教育委員会の文化担当の方や財団の方が、手助けをしてくださった。境港市は市民活動をしやすい素晴らしい町だと思います。やる気のある人を上手に支えれば、色々なグループがきちんと自立してやっていける町だと感じています。

子育てのこととか、携帯・インターネットのこともみんなで手を取り合ってやれば、少しずつでも良い方向に進んでいけるのではないかと希望を持っています。ただ、具体的にどうやってやっていくかが分からなくて。

命のことについての講演をとりましたが、公民館でよく行っています。公民館講座では、残念ながら地域の中のいつも聞かれる方です。ただ、若い方が聞くことが出来るかと言えばそういう状況にありません。昼間に開催されたりとか。ですから、公民館の講座とかを少し見直す。講座の対象や時間帯を変えてみる。公民館が子ども達の集う場になったと教育長がおっしゃっていましたが、まさに地域のコミュニティーとして公民館を活用することをみんなで推し進め、色々な年代ごとの交流会があったり、若い人が利用できるそういう状況にもっていただくだけでも随分違ってきます。様々な団体がありますが、若い人が何か出来る場所とか組織がなかなかありません。公民館のあり方とかをもう少し考えてみるのもいいのではと思います。

もうひとつ図書館の資料を毎回もらいますが、どういう年代が来ているか、全く来ていない人もたくさんいます。幅広い年代に来てもらう取り組みを図書館が行うことも大事です。教育委員会が企画をしようと思っても随分先になります。図書館が臨機応変にタイムリーなことを取り上げて小さな講座を開催するなど、今話題になっていて知りたいことなど、情報の発信基地とはそういうところだと思います。そういう意味では、今の図書館は随分と不足で、行ってみようかなと気持ちが起こる取り組みが

出来る仕組みが必要です。司書とか自由に図書館活動ができる、考えた事がタイムリーに実現できる図書館だったらと思います。

個人的に上道に「ここあん」という店を開いていて、なるべく地域の子ども達に来てもらって、こういう場所があったなと思ってもらえる場所になればと思っていまして、残念ながら近くの子は、あまり来てもらえなくて、米子や松江など遠くからわざわざ来られます。もっともって地域の方に必要とされる場所になりたいと思っていりますが、そうはならなくて難しいなと感じています。

委員 子育てに関する事業を公民館でもやっていますが、1人か2人しか来られませんね。

委員 子育て中の方は、自分の都合のいいところを選んで行かれます。面白いものを行っているところに行かれます。今は、車もありますので、近所ではなくても遠くの方が便利が良かったり、綺麗だと行かれます。

委員 おもちゃ等は提供しますが、後は自由に遊んでくださいという状況です。「こういう遊び方をしてはどうですか」とは、なかなか提示が出来ません。公民館ではなかなか難しいです。「ひまわり」等に行かれます。

私は親教育が必要だと思います。やってもらって当たり前で、感謝の気持ちがありません。見守り活動をやっていますが、2ヶ月が終わった後、学校が引き続き頼みに来られます。PTA 会長が来るべきだと思いますが、そうではありません。

幼児教育を重視し、保育所の父母に自治会単位でも教育をするべきだと思います。全市を挙げて解決すべき課題です。

施設については、非常に充実していると思います。

生涯学習課 周知の仕方、広報の仕方のテクニックも事業を効果的にするためには、何より大切なところだと思います。その部分が足りないというご意見をいただきましたが、そういった部分で社会教育の発展は、いくらでも可能になるのだと感じました。

委員 小学生の親が持つ個人的な意見ですが、市が主催する事業や学校のPTA が主催する様々な研修会がありますが、なかなか親の参加率は低い状況です。親は母親を含めてとても忙しく、境港市は就業率・共働き率が高いです。お母さんに会える場所には、子育て支援センターがあり、子どもさんが赤ちゃんの時には出会えますが、保育所に行く年齢になりますと、預けて働きに出られます。働きに出なければいけない理由は様々ですが、昼間は忙しく、朝も保育所に行く準備等でバタバタですし、帰ってからもすぐご飯を作り、寝かせていて、そのような中で、素晴らしい講演会が19時30分からあるとわかっているにもかかわらず、なかなか出掛けに

くいのです。小学校に上がってからも、子どもを置いて出ることもよくありますが、家庭でゆっくりと子どもと過ごすこともあります。どうしたら PTA の研修会への参加を進められるか考えて、悩んでいるところです。お叱りを受けますと思いますが、母親も就業しなければならない必要性があるという根本的な問題を補助してもらい仕組みができて、家庭教育にゆっくりと向き合える時間があるようになればいいなと願っています。

委員

仕事を持っている親・特に母親は、聞きたくても行きたくても行けません。時間がありません。仕事を持つ親がどういう風に子育てをしていけばいいのか。理想としては、お母さんが家にいて、夕方にはお父さんが帰ってくるホワットした感じ。でも現実には、そうはいきません。仕事をしている母親、帰りが遅い父親という環境の中で、生活でいっぱいです。子育てをしなければいけないことは、分かっていますが出来ない現実です。そういう時には、どのように子育てすればよいかアドバイスがあったらいいなと思います。

体育文化の振興の中で、ただやったではなくて、それをやってどうだったか。例えば、健康ウォークを習慣的にしていたらどのように体力がついたのかどうか、追跡も必要です。その結果どうすべきか。同じやるなら、体力テストも実態はどうなのか。来年度体育の日に実施予定です。以前は、体育の日に様々な事業をしていました。もし、体力テストを行うなら子どもと一緒にしてみる。小中学校の子ども達は、学校でしていますが、社会教育ならば親子でやってみるとか。

生涯学習課

細かい集計までは、出来ていません。

委員

自己チェックは出来ても、社会全体はどうかということが知りたいと個人的には思います。それが出来なければ、「やったな」で終わってしまいます。本当に、ウォーキングをしてどういう効果があったのか。目標がつかめるようになります。健康に良いとは聞きますが、本当はどうなのか。体力がついたのか。考察として必要です

生涯学習課長

お母さんが、出やすい環境を作るのも社会教育を推進していく上で必要です。市が講演会を開催するときに託児のシステムまで準備していなかったのではと思います。

委員

体力テストはデータどころではありません。参加者が 50 人くらいです。スポーツ推進委員が主体にやっています。全国的なデータが必要だから、推進委員が中心にやっています。本当に市としてやっていくというなら、様々な団体に参加してもらうことが必要です。20 代～50 代のデータが必要です。40～50 人の参加者のうち 20 名が推進委員です。現場としては

教育長から各団体への参加依頼をしてほしいと思います。

ウォーキングも同じです。今年度は、たまたま 132 名という多くの参加を得ましたが、べた踏み坂の好影響があったからです。例年は 50 名あるかないかです。観光協会では妖怪ウォーキング、一方で市民ウォーキング。何だと言いたい。

生涯学習課長 市が全てを行うわけにはいきません。観光協会はお金を取って事業としてやっています。棲み分けは必要だと思います。

委員 日野町の金持ウォーキングに参加しました。去年は 100 人、今年は 200 人です。去年までは、1,000 円払って金持神社まで行き、おみくじをして商品をいただいて終了でした。今年度は、出発地の黒坂神社で地元の野菜等を地域の人が売っていました。ひとつの町おこしとなっています。・集落がそれぞれで実施しています。

観光協会が行うなら、一緒にやるべきです。お互いが協力しながら行うと良いのではと思います。

委員 いつも思いますが、各課がそれぞれに事業を行います。1 日おきにメディアに関する講演会がありました。以前より、日程調整をしてくださいと頼んでいました。それぞれに講演会を行うと、行く方が少なくなります。いつもあるから行かなくても良い。「またか」となります。年に何回か開催するなら、それを絞って実施をしていくことは大事だと思います。

委員 要望です。境港市は、社会教育施設を子どもが使った場合、管理者がいるところは受益者負担の原則が適用されます。鳥取県は、県立の施設は、全て減免となっています。米子市も同じ扱いがされています。先日、境港市の中学生が米子市の公会堂を使おうと思ったら減免になりました。境港の子どもも米子市の施設を使おうと思ったら無料です。しかし、市内の社会教育施設を使ったら有料です。このあたりをご検討いただきたいと思います。

委員 様々なことを実施するにあたりまして、市全体では難しい。しかし、地域単位ではやりやすい。地域の負担になるかもしれませんが。地域で一生懸命やっていかないといけないと思います。

生涯学習課長 まさに、市民運動会や公民館まつりはそれぞれの地域で趣向を凝らし活動をしていただいています。

委員 昨今、隣近所の間人間関係が非常に希薄になっています。これが、防災や地域の活動などに非常にマイナスになっています。また、PTA の役員の成り手がいません。父母が忙しい。忙しいのは仕方ありませんが、それを手助けする社会が必用ではないかと思います。子ども達を育てるのは、親が責任を持って育てるのは当たり前ですが、やはり地域、そして

学校、最近学校の先生も強く叱れないという社会事情がありますが、子どもに対しても親に対しても弱腰に見えます。そのあたりを教育委員会がもっと頑張っていたらいいと思います。

委員

保護司会が行っている公開ケースが明日開催されます。当初、参加者が非常に少なかった。PTAに聞いてみますと出掛けにくい時間帯でした。そこで、託児をしようとなりました。再度、募集をかけたところ、参加者が増えました。アイデアの出し方だと思います。こういうところでアイデアを出し合えばいいのでは。そのために、この社会教育委員会もあるんだなと思いました。

委員

事業は共催でもいいと思います。

教育長

今日の話し合い全般を通じまして、たくさんの社会教育に関わっている方々から共通の課題が出てきました。

一番初めに廣江委員からうつの話しが出ました。うつ状態に入ってしまう子どももいますし、20代30代で家から出られないという人も増えています。また、親御さんになられても、育児うつがあります。学校には、様々なクレマーがおられます。色々なクレームを受けましたが、大概の方は会ってお話をすると分かってもらえる。ところが、全く理に合わない話をされる方の中には、案外地域の中で孤立している人が多いと感じることがあります。こんなことなら、同じお子さんをお持ちの方に話をすれば、それが「こういうことだよ」と納得できるのではないかと。しかし、孤立をしている。このあたりをつないでいく仕事っていうのがとても大事ななと以前より思っていました。

子どもを地域の活動にと話をさせていただきましたが、本市は他の地域に比べて、子ども達が地域の活動に参加することが非常に多い。このことは、子どもにとってもプラスでございますし、本日もありました。我が子大事。我が子が大事なので、子どもさんが地域の活動に参加することで、今まで地域の活動に参加していなかった親御さんが参加するようになります。その中でつながりや会話が生まれて人のつながりができる。そのあたりのことを大変期待しています。

教育長になった時に、地域の自治会やPTAに言いましたことは、子ども達が地域の活動に参加することによって喜びを感じる。顔を覚えてもらう。子ども達が親になった時にPTAや子ども会の活動に参加する。そして、PTAや子ども会でつながった親達が自治会を支えていく。自治会の参加率も高くはなくなっています。地域を支える大事な活動が社会教育にはある。社会教育の宿命的なことですが、これは悉皆では行えません。PTA活動も同じです。全員出てきてくださいと言っても、子どもは

できるが、社会教育は基本的に希望者が参加します。これに対する広報や呼びかけを増やしていくようなことをもう少し大切にしていきたいと思います。

小学校・中学校の校長さんが参加していますが、学校は教師のものでなく、校長のものでなく、地域のもでもありません。学校は、「親と地域を」、「子どもと地域を」結ぶ一つの大きなツールです。教師という人的なものもありますし、施設もそうです。全体で考えなければならない時代がやってきています。

PTA の執行部会に参加されたことはありますか。学校によっては、議題を消化して、なるべく早く帰っていただくということが行われがちです。PTA の執行部会に参加される方はみんな仕事を持っています。疲れている体で来られる PTA の方々が来て良かったな。学校の活動に先生方と話をして良かったなと思われるような PTA 活動をやっていく。その方々があなた方も参加したら楽しいよと呼び込んでいく。こういったような地道な活動が大事だなと思ったところがあります。

今日のご提言を受けながら、教育委員会が主導で行うべきことは更に工夫を凝らしてやっていきたいと思います。各団体で行われております様々な活動につきましては、今日の話題の中でキーワードになったと思いますが、子どもや保護者を巻き込むよう活動を一層進めていただきたいと思います。

生涯学習課長

それでは、以上で本日の会を閉めさせていただきます。皆様、長時間にわたり、ありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

(1 7 : 0 0 閉会)